

村石京先生 追悼

村石先生との思い出

永井 正子

昭和四十九年秋休み、私は教育実習生として初めて附属幼稚園に行きました。

村石先生の組での実習は、失敗だらけでしたが、充実した毎日でした。小さなお友達の後を緊張して歩いた遠足。集合写真を撮るとき、写真屋さんの傍にいる私を手招きして「一緒に撮りま

しょう」と声をかけてくださいました。「やさしい先生」の下で『何もわかっていない生徒』が楽しく過ごした二週間でした。

昭和五十二年四月、今度は職員として、附属幼稚園に通うことになりました。三歳児・川の組が

私、お隣の森の組は村石先生です。

一なにしろ実習をしたのは二年以上も前ですし、小さい人たちとあまり接したこともない者が、いきなり三歳児の担任です。どうしたらよいのか全然分からなくて、何もかも村石先生に教えていただいて、どうにか入園式を迎えたと記憶しております。

幼稚園では毎年、萩山の農園にさつまいも掘りに出かけていました。収穫の喜びを親子で味わう、素敵な体験です。でも、収穫することが大好きな私は、さつまいもだけでは満足できません。じゃがいも掘りと、栗拾いも計画してしまいました。そして、せっかく出かけるなら親子で十分楽しめる安全な場所をと、先生と二人で、あちこちの農園を下見して回りました。幼稚園からの距離、交通の便、最寄り駅から現地までの道の安全

など、考慮すべき点や基準は、全て先生に教えていただきました。

年長組の園外保育で、上野動物園に出かけたことがありました。大学のバスを利用して、子どもたちと大人三人だけの外出です。

その日、動物園はものすごい混みようでした。動物を見たくても、人垣に邪魔されて、檻の上のほうしか見えない、そんな状態です。何種類かの動物をやつとの思いで見学し、パンダの順番待ちの列に並びました。かわいいパンダを見て、ほとと一息……ところが、私の組の女の子が一人、いなくなっているではありませんか！ 青くなつて立ち尽くす私に、「子どもたちとここで待っているから、あなたは、まず、管理事務所に行きなさい」と指示してくださいました。

村石先生の言葉に従って走り出した私の耳に、

園内放送が飛び込んできました。「○○子ちゃんの先生、来てください！」

緑の若葉がまぶしい園庭で、おだんごやさんを開店することになりました。年中・年少のお友達にご馳走したあと、自分たちのお母さんも招待するという、大計画です。

大学構内にお散歩に行つて摘んだよもぎは、茹でて（これは大人）、包丁で刻み（子どもたち）、上新粉に混ぜて、まんまるい草団子を作りました。

みんなに分けてあげるのがうれしくて、お母さんと一緒に食べるのが楽しみで、私の組の子どもたちは、そわそわとお料理しています。ところが、どうでしょう。村石先生の組は落ち着いて、テーブルにお皿やフォークを用意したり、へおだんごや」というすてきな看板を作ったり、

どういう手順でお母さんを席に案内したらいいか、なんて考えているのです。担任がお母さんと子どもみただと、子どもたちもそっくり同じねと、妙に納得してしまった瞬間でした。

この、お母さん組・子ども組という関係は、いろいろな場面で顔を出してくれました。

ある年のひな祭りでは、学年別に一曲歌を歌うことになりました。私たちは『ひよこさん』を選び、歌の後半がお母さん鳥とひよこの掛け合いになっているので、組で分けて歌いましょうと相談しました。さて、子どもたちに「こっこの母さんとひよこさん、どっちがいい？」と聞いてみると、村石組は「こっこの母さん！」。永井組は、「ひよこがいい！」と、全員一致で決まりました。

村石先生は薔薇作りの名人で、ご自分の家の庭

で咲いた薔薇を幼稚園でも活けておられました。

私も薔薇が好きで何株か育てていましたから、先生のまねをして、庭の花を保育室に飾ったものです。薔薇は、手をかけてあげればそれだけ立派な花を咲かせます。ちよつと手を抜くと、花にすぐ影響が出てきます。先生の薔薇はどれも皆立派で、お忙しい先生はどうかやってお世話をしてもらっしやるのかしらと不思議なほどでした。

先生の薔薇の中で私が一番好きだったのは、濃いめのピンクに白い縞模様が美しい花で、モダンタイムズという名前だったと記憶しています。私も苗が欲しくて探しましたが、どのお店にもない、貴重な品種でした（もう一度あの薔薇を見たいと思って、ホームページをあちこち探してみましたが、残念なことに、見つけれませんでした）。

先生にいただいたぶどうの木は、我が家にしっかりと根を張りました。「おいしいぶどうなのよ」と、お庭に実生の若木を鉢植えにして、幼稚園まで持ってきてくださったものです。しばらく鉢植えのままにしておきましたが、七、八年前に庭に定植しました。今では、幹も太く、ペランダに枝を広げる大きな木に成長し、毎年美味しい実をたわわにつけてくれます。

教えていただいたこと全てが懐かしく、胸に迫ります。村石先生と私の関係は、初めてお会いしたときからずっと、指導教官と実習生のままだっ気がします。

昨年十二月に天国へと旅立たれた村石先生、どうぞ、これからも後輩を見守っていてください。

（大泉双葉幼稚園）